

第29回全国障害者技能競技大会 (アビリンピック)

独立行政法人 高齢・障害者雇用支援機構 雇用開発推進部雇用推進課

1. アビリンピックとは

「アビリンピック」の語源は、英語のアビリティ (ABILITY) とオリンピック (OLYMPIC) を合わせた造語である。大会の正式な名称は「全国障害者技能競技大会」であるが、大会の愛称として「アビリンピック」が用いられている。アビリンピックは、障害者が技能労働者として社会に参加する自信と誇りを持つとともに、広く社会一般の障害者に対する理解を深め、その雇用の促進等を図ることを目的としている。

開催地については、昭和47年の第1回大会から平成13年の第25回大会まで千葉県千葉市において開催してきたところであるが、平成14年度からは、地域におけるアビリンピックと障害者の職業能力についての周知・啓発を担うために地方都市で実施することとした。このため、平成14年度の第26回大会は熊本県、第27回大会は宮城県、第28回大会は山口県で開催してきた。昨年度の第28回全国大会は、第43回技能五輪全国大会と初めて同時開催し、23種目に過去最高の270名の選手が参加した。来場者も県内外の事業主をはじめ、工業高校および養護学校高等部の生徒を含め、過去最多の23,000人が来場した。

本年10月27日（金）から29日（日）までの3日間の予定で香川県高松市で開催する第29回全国大会は、来年11月静岡県において開催予定の第7回国際アビリンピック（2007年ユニバーサル技能五輪国際大会として第39回技能五輪国際大会と同時開催）のプレ

大会として位置づけ開催することとしているほか、国際アビリンピックへ派遣する選手の最終選手選考会を兼ねた大会でもある。

2. 参加資格

第29回全国大会の参加資格は、次の(1)～(4)のすべてに該当する者であって、都道府県知事の推薦を受けた者である。

(1) 対象障害者の種類

- ① 障害者の雇用の促進等に関する法律第2条第2号および第3号に規定する身体障害者で身体障害者手帳所持者
- ② 障害者の雇用の促進等に関する法律第2条第4号、同法施行規則第1条の2に定める知的障害者
- ③ 障害者の雇用の促進等に関する法律第2条第6号、同法施行規則第1条の4に定める精神障害者

(2) 平成18年4月1日現在15歳以上の者

- (3) 第29回大会開催前4ヵ月以内に医師の診断を受け、競技参加について適当と認められる旨の証明された者

- (4) 参加を希望する種目において第1回から28回までの大会で金賞を受賞したことがない者

3. 競技種目

これまでアビリンピックで実施してきた競技種目

数は、障害のある者が就労している職業のうち、延べ50種目を実施してきた。大会創世記においては、建具やラジオ・時計修理等の15種目を実施していたが、障害のある者の就労動向の変化に伴って、近年ではCADやデータベース、ホームページ、コンピュータプログラミングといったIT関連の種目や、フラワーアレンジメントや写真撮影などの芸術分野の種目も実施している。なお、第29回大会では、国際アビリンピックで実施予定の26種目を含む28種目の職業技能競技種目と、4種目からなる生活・余暇技能競技種目（絵画、陶磁器、編物、刺繍）の32種目を実施することとしている。

第29回全国大会で実施する競技は、技能検定実技試験（2級程度）等の水準で作成（課題の一部は事前にホームページなどで公表）された課題に基づき実施される。その結果、成績優秀者には、金、銀又は銅賞のメダルを授与し表彰するとともに、技能検定等に係る課題で、一定以上の成績を修めた者に対して、技能証（実技部門）が交付されることとなっている。



図1 開会式の模様（第28回大会）



図2 競技風景（データベース作成）

表1 第29回大会競技種目

●職業技能競技種目	
洋裁	コンピュータプログラミング
洋服	パソコン組立
家具	精密板金
DTP	写真撮影
機械CAD	フラワーアレンジメント
建築CAD	籠製作
電子機器組立	木彫
電子回路接続	機械組立
パソコン操作	ポスターデザイン
義肢	貴金属装身具
歯科技工	縫製
ワードプロセッサ	木工
データベース	喫茶サービス
ホームページ	パソコンデータ入力
●生活・余暇技能競技種目	
絵画	編物
陶磁器（形成）	刺繍



図3 競技風景（フラワーアレンジメント）

4. 地方アビリンピック

全国大会の選考会を兼ねた地方アビリンピックが、都道府県および国公立等の能力開発機関等の協力を得て、全都道府県協会で実施されている。実施され

ている競技種目は、全国大会出場を見据えた競技種目のみならず、各都道府県の地場産業等から取り入れた競技種目も実施されている。

平成17年度においては、47都道府県で1,890人（うち、知的障害者871人）が延べ311種目（うち、知的障害者関連種目118種目）に参加した。

5. 併催イベント

全国大会の開催にあわせて、障害者の雇用の促進等に関する啓発効果を高めるため、障害者を多数雇用している事業所等の活動状況や障害者福祉施設等の取組状況を展示・実演するほか、障害者職業能力開発施設の指導者交流会等を併せて実施する総合的なイベントを「障害者ワークフェア」と冠して開催している。



図4 ワークフェアの様相

とりわけ「障害者能力開発指導者交流会」は、公共および民間における障害者職業能力開発施設の職業訓練指導員や指導者を対象に、それぞれの施設における具体的・先導的な取り組みに関する情報交換を行うとともに、障害者の動向や企業の取り組みに関する認識を共有し、障害者の職業能力の向上に関する理解を深め、障害者の雇用の促進と職業の安

定に資することを目的として実施されるものである。本年度も、第29回全国大会の期間中である10月27日（金）に、第2競技会場であるサンポート高松において開催する予定である。

表2 障害者ワークフェア2006の内容（予定）

- ・ 障害者能力開発指導者交流会
- ・ 障害者雇用促進シンポジウム
- ・ 障害者雇用事業所・授産施設等による展示・実演・即売
- ・ 障害者職業能力開発施設等を紹介する展示・実演
- ・ 障害者就労支援機器・生活福祉機器の展示
- ・ 福祉車両の展示
- ・ 障害者職業相談コーナー
- ・ 香川県内障害児童・生徒作品展
- ・ 障害者雇用支援月間ポスター入賞作品展
- ・ 障害者授産施設による喫茶コーナー
- ・ ハートフルフェスタ in かがわ
（第17回全国障害者雇用促進展示会）
（パネル展示／作業実演／製品展示・即売など）
- ・ ハートフルアート展
- ・ 生活に役立つ自助具の実演講演
- ・ さをり織り体験コーナー（だれでも気軽に織物製作体験）
- ・ 盲学校によるあんま体験コーナー
- ・ 障害者授産施設によるうどん実演コーナー
- ・ サンサン祭り



図5 ワークフェアの様相（しごと展）